

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271501019		
法人名	株式会社ウエル		
事業所名	グループホーム徳ちゃん		
所在地	〒857-0414 長崎県佐世保市小佐々町矢岳1062-3		
自己評価作成日	令和3年12月23日	評価結果市町村受理日	令和4年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「緑豊かな環境のもと、おだやかにその人らしく生き生きと暮らしていくことを支えます」の理念のもと、その人らしく自由に笑顔で過ごせるよう支援している。体調不良時にはすぐに医療機関に連絡し、受診することで重度化しないように心がけている。コロナウィルス流行の為できなかった交流を今後も継続できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年12月に開設した当ホームは17年目を迎え、各ユニットの管理者の主導のもと理念の浸透が図られ、入居者は地域との交流を継続しながらホームでの穏やかな暮らしが実現できている。定期的に発行する「徳ちゃんだより」には入居者の様子が分かる写真や入居者が制作した作品のほか、行事やドライブ、新人職員の紹介等、ホームの様々な情報を伝えている。ホームの食事やおやつは地域の旬な食材を使用し、全て手作りで、入居者や家族からも好評である。ホームは当該地域出身の入居者と職員が多いことで、入居者の馴染みの関係や様々な情報を把握できている。入居者への個別支援に繋がっている。現在、コロナ禍にあり、外出等を自粛しているが、ホーム内でカラオケをして好きな歌を唄ったり、内庭で日向ぼっこを通して外気浴を行うなど入居者のストレスに配慮し様々な趣向を凝らしながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 すずらん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナウイルス感染予防の為、以前のような地域の方を招いた直接的な交流はできなかったが、広報活動等により、地域の方と連絡を密にして、間接的な繋がりを保った。職員は理念を共有し、実践に努めている。	理念「自然に囲まれ、地域との交わりの中で、高齢者、障がい者、及び社会的弱者であっても社会参加できる環境作りをしていきたい。」「子供からお年寄りまで地域において福祉・文化・教育・自然環境をテーマに行います。」を事務所内に掲示し、職員間で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、地域交流のイベントは全て中止された。中学生の体験学習や育成会の来所等もやむなく中止された。	ホームは地域の自治会に加入し、回覧板を回したり、青少年健全育成会よりカレンダーを頂くなど日ごろから地域と繋がりを持っている。現在はコロナ禍により地域交流のイベントへの参加や、中学生の体験学習の受け入れ等を中止した。管理者は制限解除後には地域との交流を更に深める意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で支援を必要としている方々をよく知り、訪問したりして、相談を受け、いつでも、サービス提供の対応をできるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎の運営推進会議では、現在書面により、委員の方の指導・助言を受けている。会議ではヒヤリハット事故報告をし、改善や予防の為、学ばせていただいている。	運営推進会議はコロナ禍の為書面会議にて実施している。会議には「ホームの現況報告」、「職員の配置状況」、「行事・研修」、「今後の行事計画」、「ヒヤリハット事例報告」、「研修・身体拘束・虐待防止」他が議題として挙げられ、構成メンバーからの意見や助言を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、常日頃、指導を受け、情報も共有している。包括センターや社会福祉協議会とも連携を取り、協力を受けている。	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加し、積極的に意見や質問を寄せるなど協力的な関係を築いている。制度変更等の際は行政担当者へ助言を仰いだり、後見人や保佐人といった制度を活用する方には関係機関と協力して円滑に利用できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしていない・職員は勉強会を開き報告し共有している。帰宅願望、徘徊の方もいるが、家族とも連絡を密にし、職員で研究、拘束をしないケアに取り組んでいる。	訪問調査日現在、身体拘束が必要な入居者はいない。ホームでは入居者の状態を職員間で共有し、身体拘束ゼロに継続して取り組んでいる。身体拘束や虐待に関する検討の機会を設け、職員が理解を深め意識を持ち入居者支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしていない。職員間で問題を共有し、虐待を見過ごしていないか検討の機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナ渦のため、研修には行けなかったが勉強会を開き、職員の知識を高めあうよう努めている。成年後見人制度を利用される入居者がおられるので、その後見人と利用者、職員とのコミュニケーションをしっかりとれている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、その家族には重要事項や契約書を説明し、料金改定がある際は、その都度納得いくまで説明し、了解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ渦のため、年1回の家族会は書面での開催となっている。 ホーム便りを年4回発行している。	5月または6月に家族会を実施していたが、コロナ禍により書面での会議とした。年4回発行する「徳ちゃんだより」には入居者の様子が分かる写真や入居者が制作した作品のほか、行事やドライブ、新人職員の紹介等、ホームの様々な情報を伝えている。	コロナ禍の為、家族との面会や交流する場面が減少しており、不安感を抱いている家族もいる。例えばホームで実施している感染対策や清掃状況はチェック表を活用して「見える化」を図るとともに、入居者の日々の生活の様子など詳細情報の発信を強化するなど更なる家族の安心に繋げることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関しては、事務員を通じて代表者に意見を提案している。	毎月実施する職員ミーティングでは担当職員を中心に活発な意見交換を行い、入居者の生活上の支援や、本人の状況に応じたサービスの提供に繋げている。代表者への意見や提案は事務職を通じて伝えられている。	コロナ禍の為、職員が各種の外部研修に参加する機会が減少していることを踏まえ、オンライン研修に参加できる機材の整備や参加できない場合の代替方法を検討するなど研修参加の機会に繋がる今後の更なる取り組みに期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意見を聞き、働きやすい職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の資質向上のため、研修の受講をすすめているが、コロナ渦のため、思うにまかせない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム協議会に入会し、研修に参加し、連絡をとり、交流している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し、話を聞いている。本人の不安、要望を尋ね、安心して入居いただけるよう態勢作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の前に訪問し、その時の生活状態を把握している。家族の方の要望を尋ね、不安なく入居いただけるよう努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の前に訪問し、会話をし、本人・家族の希望を見極め、必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方を家族と思っている。寝食を共にし、不安や楽しみを共有し、生活している。人生の先輩として教えてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係を大切に思い、職員は家族と不安や悩みを共有し、本人を支えていきたいと思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常に友人、知人等、面会を歓迎しているが、コロナ渦のため思うにまかせない。地域の行事も軒並み中止となり、参加できない。	現在、コロナ禍の為、馴染みの知人や場との関係継続の支援を自粛している。尚、人が大勢集まるような場所に行くことはできないが、病院受診後に自宅に寄ったり、買い物に立ち寄るなど感染対策を講じながらできる範囲で馴染みの関係継続の支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が、レクレーション等を通して、お互いにいたわりあって仲良く生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ前は退所後、他の施設に入所されたり、入院された方の面会に行っていたが、今はコロナ渦のため直接いけないが、連絡をとるよう努めている。葬儀に参列することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース検討会を開き、担当の職員が状況を説明し、個々の意向に沿った本人単位のケアができるよう検討している。	定期的にケース検討会を開催し、担当職員が入居者に関する詳細な情報を説明し、他の職員と情報を共有している。職員は日々の支援を通じて入居者と会話し本人が発した言葉で知り得た情報は介護日誌や個人記録に残し、職員間で情報を共有している。また、本人の意向は必要に応じて介護計画にも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や趣味を家族や友人・知人から聞き取り把握している。社会福祉協議会にこれまでの利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課表に沿った生活だけでなく、一人ひとりの希望、心身状態に沿って生活されるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当を決め、よりより見守りができるようにしている。月一回の、介護計画を作成している。毎朝の申し送りでも状況を把握している。	ホームでは入居者それぞれに担当職員を配置している。ケース検討会で入居者の状況を報告し、支援方法を検討している。入居者や家族の意向に沿った介護計画となるよう検討し、より良い介護計画を作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月の状況を個別記録に記入し、毎朝申し送り、月一回のケース検討会で情報を共有し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の希望やニーズに対応できるように職員間で常に検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所、行政センター、社協、包括センター、民生委員等地域の方の指導・助言を受け、一人ひとりが安全で楽しく暮らしていけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医は本人や職員の相談にも応じてくださる。病状悪化の時は、専門医に紹介状を出してくださる。	入居時に入居者及び家族にホームのかかりつけ医について説明し、希望に応じた選択ができるよう支援している。受診には基本的にホーム職員が入居者本人のバイタル情報等を所持して同行支援するほか、コロナ禍による電話診療への対応も行っている。受診結果を家族に伝え必要に応じて介護計画に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場には1名の看護職員がいて、相談している。各ユニットに1名ずつを希望している。かかりつけ医の調剤薬局の薬剤師の方も相談にのり、指導してくださっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入退院等、医療機関と情報交換し、相談をしている。主治医、ソーシャルワーカーの方も相談に応じてくださっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方は、家族の方に承諾を得ている。看取りのマニュアルを職場は保有している。終末期は町内の特別養護老人ホームの連携機関にお願いしている。	ホームでは見取り支援は行っておらず、入居時に入居者及び家族に説明し、同意を得ている。入居者が重度化し医療的ケアが必要になった場合は地域の特別養護老人ホームへの入所や病院への入院について家族へ説明し、移転となる。円滑に移転先へ移れるよう関係機関と連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は利用者のバイタル、様子等をいち早く把握するように努めている。応急手当ができるよう研修し、職員間で共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害時の避難訓練をしている。避難場所を把握し、地域の消防団、近隣の方との協力体制を築いている。消火、避難の訓練をし、訓練後、反省会を開いている。自動火災報知設備、スプリンクラー設置もしている。	緊急時は職員間で互いに声掛けを行い、スムーズに役割分担ができるよう努めている。ホームでは避難時の確認方法を居室入口にチョークでチェックを行う事で統一を図っている。有事に備え、消費期限を明記した非常食を保管管理している。令和2年には台風接近に伴い実際に公民館へ避難した経緯が窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重する言葉かけに注意している。排泄時の介護もプライバシーを損ねないよう努めている。入浴も一人ひとりに対応し、清掃・更衣、汚物の処理にも注意をしている。	職員は入居者への呼び方を「さん」づけとして呼ぶよう心がけ、馴れ合いにならないよう留意している。また、徘徊、興奮などの認知症周辺症状の行動について、職員は入居者の本意を推察するよう努め、排泄時や入浴時等、必要に応じて他の職員にケアを交代するなどして不穏を抱かせないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	好きな食べ物、行きたい所等、希望を訊き、その希望に沿うよう努めている。利用者がいつでも話をしやすいような雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調、都合に応じたサービスを提供できるよう努めている。起床、就寝の時間は、一人ひとり違っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は一人ひとり希望のものを着られている。季節や寒暖に合うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好物を聞き、把握している。嫌いなものも把握している。食器カップ、箸は自分のものを使われている。配膳、後片付けも食器洗いも手伝われている。漁業の町なので、新鮮な魚も提供している。	ホームでは入居者毎に嗜好を嗜好表に記録して把握している。食事前体操(パタカラ)を全員で実施し、キザミ食やソフト食等入居者の状態に合わせた食事を提供している。食事やおやつは地域の旬な食材を職員が購入したり、新鮮な魚を直接配送してもらったりなどし、全て手作りで調理した食事を提供することで、入居者や家族から好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好み、体調に応じ、食事を提供している。食事量を記録している。水分摂取も気をつけ、塩分にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯を外し、歯磨きをされている。自分の歯や義歯がない方も食後歯磨き、口のうがいもされている。就寝前は義歯をポリドントにてつけられている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握している毎月のライフチャートに記載し、その方のパターンに合わせて、介助している。	職員は入居者の排泄状況を個々のライフチャートの排泄表に記録し、本人の排泄習慣を把握して個別の排泄支援に繋げている。排泄の失敗についてもプライバシーに配慮し、さりげない声掛けを心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因かもしれない食事量、水分摂取量を把握している。体操、散歩など運動も促している。病的な便秘の方は主治医に相談し、排便促進剤を投与してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、決まっているが絶対ではない。利用者の体調等に合わせて、行っている。汚染ある方はシャワー浴を何回でもしている。	ユニット毎に、入浴日は月曜日と金曜日、または火曜日と土曜日とし、水曜日または木曜日はシャワー浴で対応できる。排泄失敗などの汚染等があった場合は随時シャワー浴で対応できるよう努めている。入居者の希望により同性介助にも配慮しながら支援している。職員は季節に応じ、柚子湯や菖蒲湯など入浴が楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの一日のリズムを把握し、休息の時間を与えるようにしている。午睡されない方もいるが、就寝を早くしたり、疲れないようにしている。夜間、長眠されるように昼間はレクレーション等、体を動かされるような支援をする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの薬の目的や副作用、用法について理解している。各自、薬を手渡し、服用されるまで見守る、症状の変化があれば主治医に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味、特技等を把握し、楽しく生活されるよう支援している。毎食後、コーヒーを楽しまれる方もいる。新聞を読まれる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めていたが、コロナウィルス感染予防の為に現在はホーム内庭にてパイプ椅子使用、太陽を浴び、軽い運動をしたり、歌を歌ったりしている。	コロナ禍で日常的な外出を自粛しているが、感染対策を講じた上で、ホームの車いす対応車両でドライブに出かけたり、入居者の希望を募り大勢の人と接しないよう配慮して神社に初詣に行くなどのほか、内庭で日向ぼっこを通して外気浴を行うなど入居者のストレスに配慮し、様々に趣向を凝らしながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方よりお金を預かっているが、コロナウィルス感染予防の為、外出はできていない。職員が、たのまれる物を買って来てきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人の方の電話で喜ばれる、携帯電話を持っている方もいる。年賀状書かれ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	サンルームは両ユニットより出入り出来、合流してすごせる場所となっている。お互いの居室に訪問したり、皆さん仲良く生活している。玄関・居間には利用者の方の手作りの作品を飾っている。季節の花も飾っている。	ホームの共用空間は24時間換気システムにより常時換気が行われ、毎日、B勤職員が要所の清掃を入居者と一緒に行っている。共用空間は彩光がよく、季節の花や装飾のほか入居者が制作した習字や作品などが飾られており、入居者は穏やかに、思いおもいに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでテレビを見られたり、友人の居室を訪問し、談話されたりして過ごされている方もおられます。個室であり、自由に過ごせることを喜ばれる方も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅より持ってこられた寝具やタンスを使用されている。各室内には個人のテレビを持っておられる。荷物がたくさん置いてある居室もある。	居室への持ち込み品について、危険物以外には特に制限を設けていない。本人の使い慣れた寝具やタンス、テレビ等を持ち込まれており、入居者の個性を活かした居室づくりができています。コロナ禍以前はカトリック教の神父が居室に訪問しており、入居者の信仰心にも配慮していることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間でテレビを見たり、レクレーションに参加したりと楽しく過ごされている。食堂では野菜切り、魚の下ごしらえ、お盆拭きの手伝いされ、宴会であられるよう見守っている。歌、体操等のリーダーの役割をされている方もいる。各自の自立を支援している。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 福寿草

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のミーティングで初めに全員で理念を読み上げ、常に実践でつなげるよう努力をしている。 また、運営推進会議でも理念を一番初めに明記している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルス予防の為、行事が中止となり、現在は交流がないがコロナウィルス終息後は徐々に交流を深めていきたいと考えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々と連絡を取り、要援護者の把握にも努めている。また、地域の方々の相談にも対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、書面会議にて利用者の現況報告、今後の行事計画、ヒヤリハット等を報告し、メンバーからの意見を参考にサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活福祉課と連絡を密に取り、実情を報告し、相談に乗ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が病院受診等で目が届かない時や夜間のみ玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2カ月に1回の運営推進会議で毎回事例を元に職員同士で話し合いの場をもうけ、虐待についての理解を深め、虐待防止に努めている。研修があれば参加もしたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修がある時には参加し、必要性のある方については関係者と話し合い、活用できるように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面を用い、説明を十分にし、理解、納得をいただいている。また改正時には書面にして説明を十分にしよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しているが、入れられる方はおられない。面会時やケアプラン説明時に意見や要望を聞いている。外部へは運営推進会議のみになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は事務員を通して、代表に伝えてもらっている。職員の意見や提案はミーティングや休憩時間等に聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況・給与については事務員が代表者に報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内に応じ検討し、できるだけ参加している。介護福祉士やケアマネージャーの資格取得の支援は受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会の研修やブロック会議等には参加し、同業者の活動の動向や情報交換をし、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談に行き、本人の要望等に耳を傾け、身体・生活状態の把握に務め、安心して生活できるような環境作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がホーム見学時に困っている事や不安なこと要望等に耳を傾けながら安心して入居いただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談に行き、本人、家族が何をホームに求めているかを見極め、理念にもある「その人らしく」を頭に入れながらサービス提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の不安や楽しみを共有し、おだやかに、その人らしい暮らしがおくれるように共に支えあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時には本人の体調や日々の出来事を報告し、家族と話し合いながら本人を支えられるような関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルス感染予防の為、面会禁止にしていたが、12月1日より面会を再開している。神父様も時々来所して下さる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握し、居間・ドライブ時の席を配慮し、利用者同士が関わり合いながら生活できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナウィルスの影響で他施設でも面会禁止になっている為、面会はできないが御家族の方に会った時には近況をお聞きしている。家族より連絡があれば葬儀にも出席している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人ひとりの行動・言動を見守り、それにより気づき、問題点を探し出し、ミーティング等で話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービス機関より情報提供をいただいたり、家族・本人からも話を聞いたりして以前の暮らしの把握にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の精神状態や体調に合わせて一日の過ごし方や現状の把握にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人ひとりの担当を決め、月1回のケース検討会で1カ月の状況を報告し、職員の意見を出し合い、今後の介護計画を作成、朝・夕の申し送りにて入居者の状態を把握している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に目標を書き、常に意識しながら、情報を共有し、一人ひとりに合ったサービスを提供できるように実践し、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・その時々生まれるニーズに対応し、必要なサービスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルス感染予防の為、面会禁止や外出の機会が減り、運営推進会議も書面になった為、電話対応だが協力関係を築けるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医受診継続にて御家族が受診支援して下さる方もおられる。連携医療機関には急変時、対応をしてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護員は看護職に気づいた事や情報を伝え、入居者の体調維持に努め、急変時対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を迅速にし、病院の看護師・ソーシャルワーカー家族と連絡を取り、情報交換や相談をしている。退院時には面会に行き情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた指針を作成して入居時に説明をしている。医療機関や家族と話し合いながら段階に合わせ対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応できるよう、定期的に訓練できるように講習会等に参加していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	日々の点検をすると共に避難訓練を定期的に行っている。地域の消防団にも協力体制を依頼している。一年前の台風には地区公民館に避難した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけには十分注意を払い、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人の思いや希望を察知し、本人自身が自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが一人ひとりの体調やペースに合わせてながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所や床頭台に鏡を設置している。本人の意思にて着衣されている。男性入居者には声かけ、髭剃りを促したり、季節に合っていない服装の時には助言・支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜切りや魚の下ごしらえ等を利用者に手伝ってもらったりテーブル拭き、お膳拭き等は自らして下さる。配膳するとあいさつの前に食べられる方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量、食事形態を決め食べやすいように工夫している。食事量減少の方に対しては、ドクターに相談しエンシュアを一日一本摂取しておられる方もおられる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前には声掛け、口腔ケア促している。自分の歯や部分義歯の方もおられ準備をして洗浄していただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人ライフチャートに記入し、排泄パターンを把握し、食前、就寝前にはトイレを促している。時間置きに声掛け、尿失禁でのパットの数を減らせるよう支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を探し、食事や水分補給に配慮し、リハビリ体操への参加も促している。腹部マッサージや薬等での調整も支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調に合わせ、入浴の順番にも配慮しながら支援している。浴槽内にもゆっくり入られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、その日の状態に応じ、休息したり安心して良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的、用法、用量を理解し、一人ひとり手渡しや口に入れたり、その人に合った服装に対応し、確実に服薬できたか見守っている。臨時薬・薬変更時には申し送りにて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その方の得意分野を見つけ発揮できるよう支援していきたい。毎日大好きなおロナミンCを飲まれている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルス感染予防の為、家族との面会、外出も限られていたが、12月より感染対策をしながら戸外に出られるよう支援していきたい。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持っておられる方もおられるが、現在外出の機会もなく、買い物頼まれる方もおられない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から贈り物が届いた時には必ず電話をし話される。毎年、年賀状を送る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広く、いつでも利用できている。温度・湿度計を設置しエアコン等で調整している。季節がわかるように玄関・居間には壁画を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファ設置し、一緒にテレビ鑑賞されたり、会話をして楽しまれている。隣のユニット間の交流もあり、遊びに行かれたりもされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人・家族と相談し、自宅で使用しておられた家具・寝具を持参され、居心地よく過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーになっており、車椅子の方も自操し、移動しやすくなっている。トイレ・自室が分かるよ大きな名札を貼っている		